

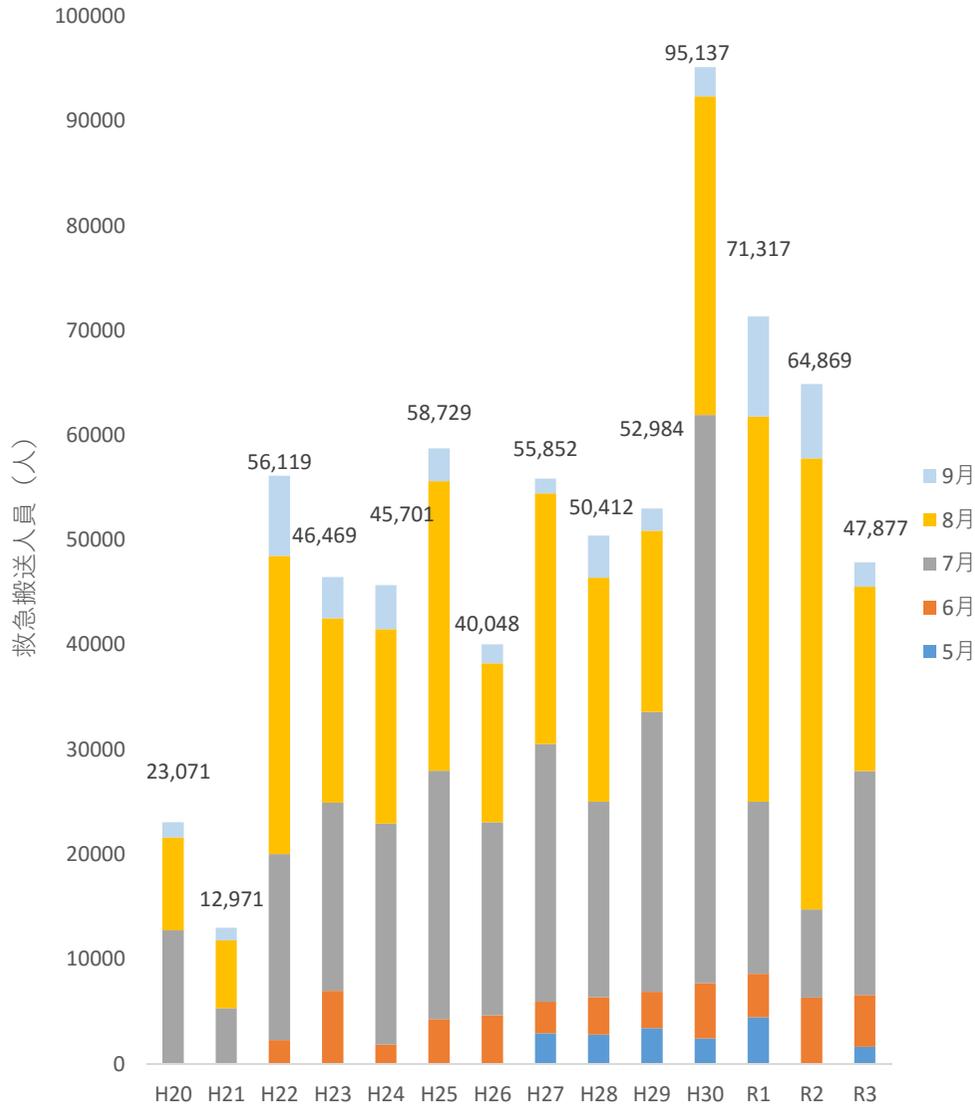
熱中症の現状と対策について

令和4年4月13日

熱中症による救急搬送人員と死亡者の状況

熱中症による救急搬送人員の状況

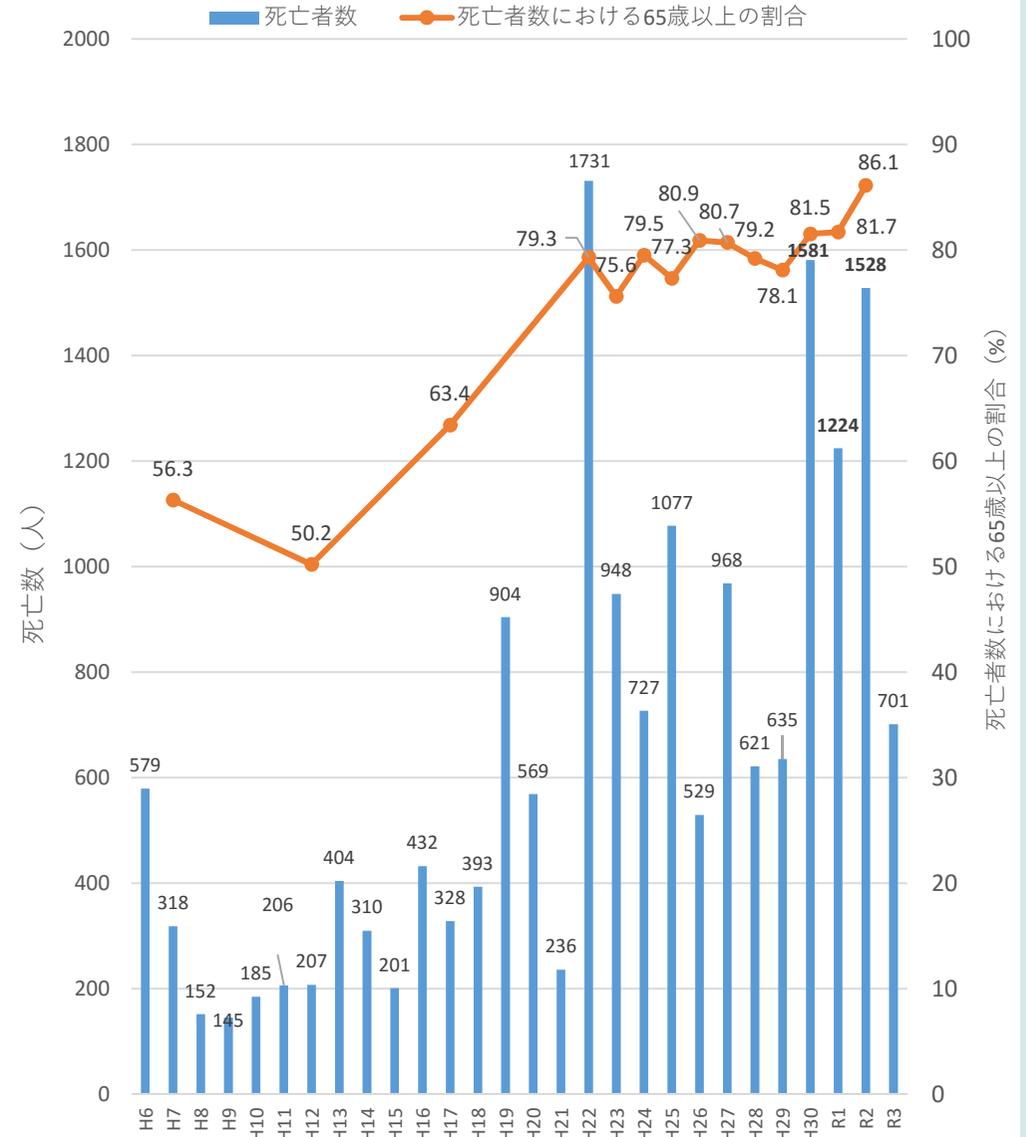
例年4～5万人前後の救急搬送人員が発生



出典：消防庁

熱中症による死亡者の状況

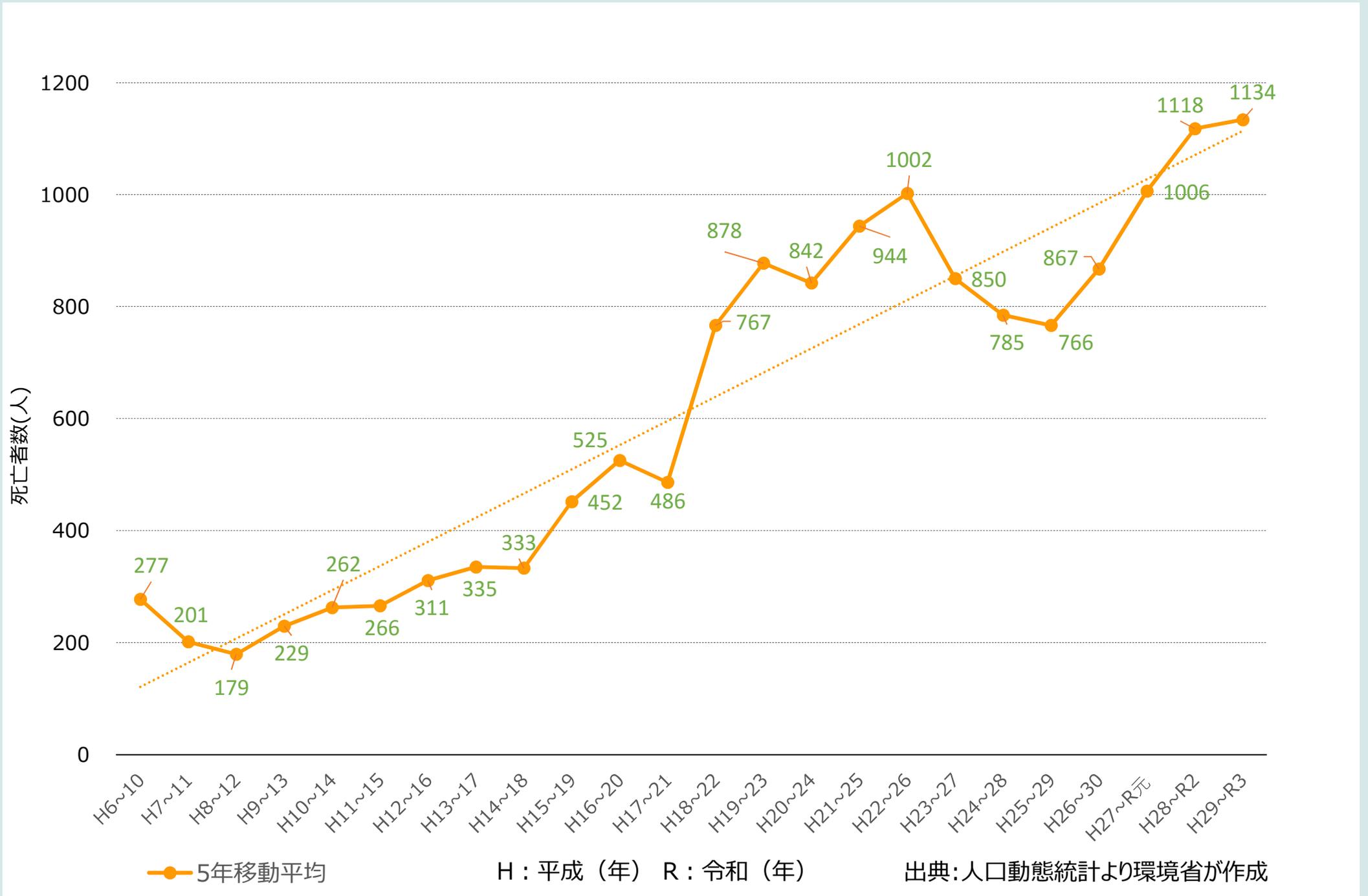
平成30年から令和2年まで、3年連続1,000人を超えている



※令和3年の値は6月～9月概数

出典：人口動態統計

熱中症による死亡者の状況 5年移動平均（全国）



「地球温暖化」と「極端な高温」の関係

【地域別の極端現象の分析】

- 世界を45の地域に分けて、極端な高温の増減について分析。
- 「東アジア」を含む**41地域において、極端な高温の頻度が増加。**

極端現象の種類	頻度が増加した地域の数	頻度が減少した地域の数
極端な高温	41地域／45地域 (「東アジア」含む。)	0地域／45地域

【地球温暖化に伴う極端現象の変化】

- 極端な高温等が起こる**頻度とそれらの強度**が、地球温暖化の進行に伴い**増加すると予測。**

極端現象の種類	現在 (+1°C)	+1.5°C	+2.0°C	+4.0°C
極端な高温 (10年に1回の現象)	2.8倍	4.1倍	5.6倍	9.4倍
極端な高温 (50年に1回の現象)	4.8倍	8.6倍	13.9倍	39.2倍

【発生地域】 カナダ (ブリティッシュ・コロンビア州)

【発生時期】 2021年6月25日～7月1日

【最高気温】 **49.6度**を記録 (6月29日 リットン村※)

(※) 北緯50度13分52秒 (札幌市:北緯43度3分43秒)

6月の平均最高気温 (1981-2010年) **24.3 度**

出典: Environment Canada



【死亡者数】

熱波発生時期 1 週間の死亡者数 ブリティッシュ・コロンビア州 (人口 465万人)	
全死亡者数 (6月27日～7月3日) (※1)	熱中症による死亡者数 (6月25日～7月1日) (※2)
1,485人 (例年の約2倍)	526人(全死亡者数(※3)の4割弱)

※1: 出典 カナダ統計局

※2: 出典 BC Coroners Service (BCCS) Heat-Related Deaths – Knowledge Update

※3: 同時期における同州の全死亡者数

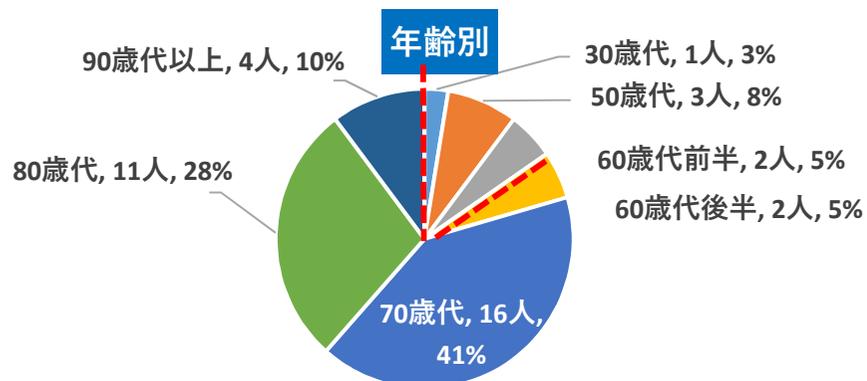
熱中症による死亡者の状況

令和3年夏の東京都23区、大阪市における熱中症死亡者の状況

○令和3年10月31日検案時点までの**東京都23区**における熱中症による死亡者**39人**
(東京都監察医務院の死体検案の速報値)

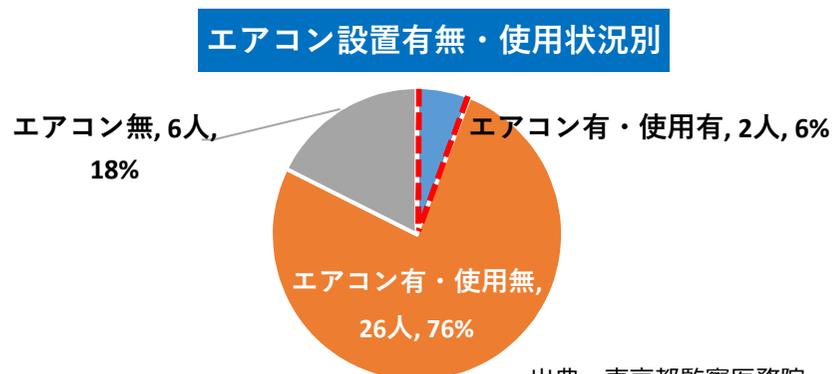
計39人(速報値)のうち

- ・ **8割以上は65歳以上の高齢者**



屋内での死亡者のうち

- ・ **約9割はエアコンを使用していなかった**

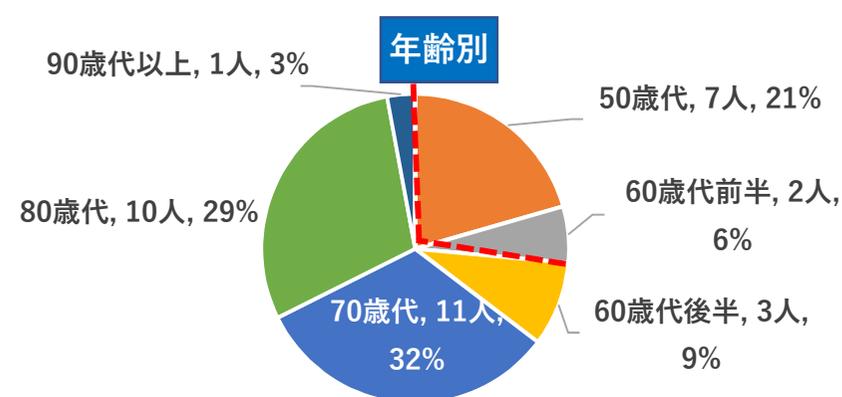


出典：東京都監察医務院

○令和3年10月31日検案時点までの**大阪市内**における熱中症による死亡者**34人**
(大阪府監察医事務所の死体検案の速報値)

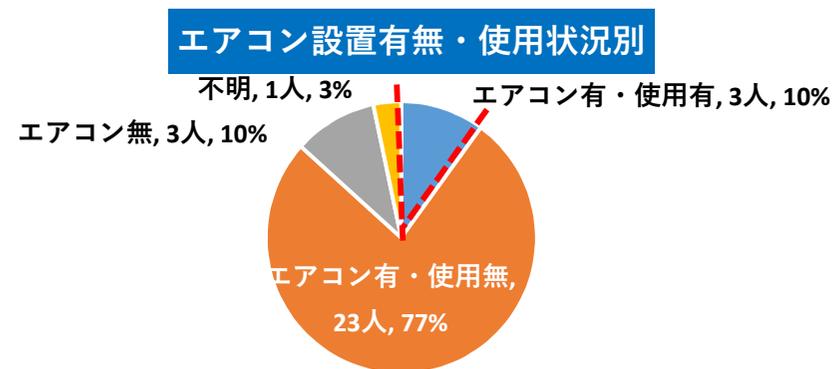
計34人(速報値)のうち

- ・ **7割以上は65歳以上の高齢者**



屋内での死亡者のうち

- ・ **約9割はエアコンを使用していなかった**



出典：大阪府監察医事務所

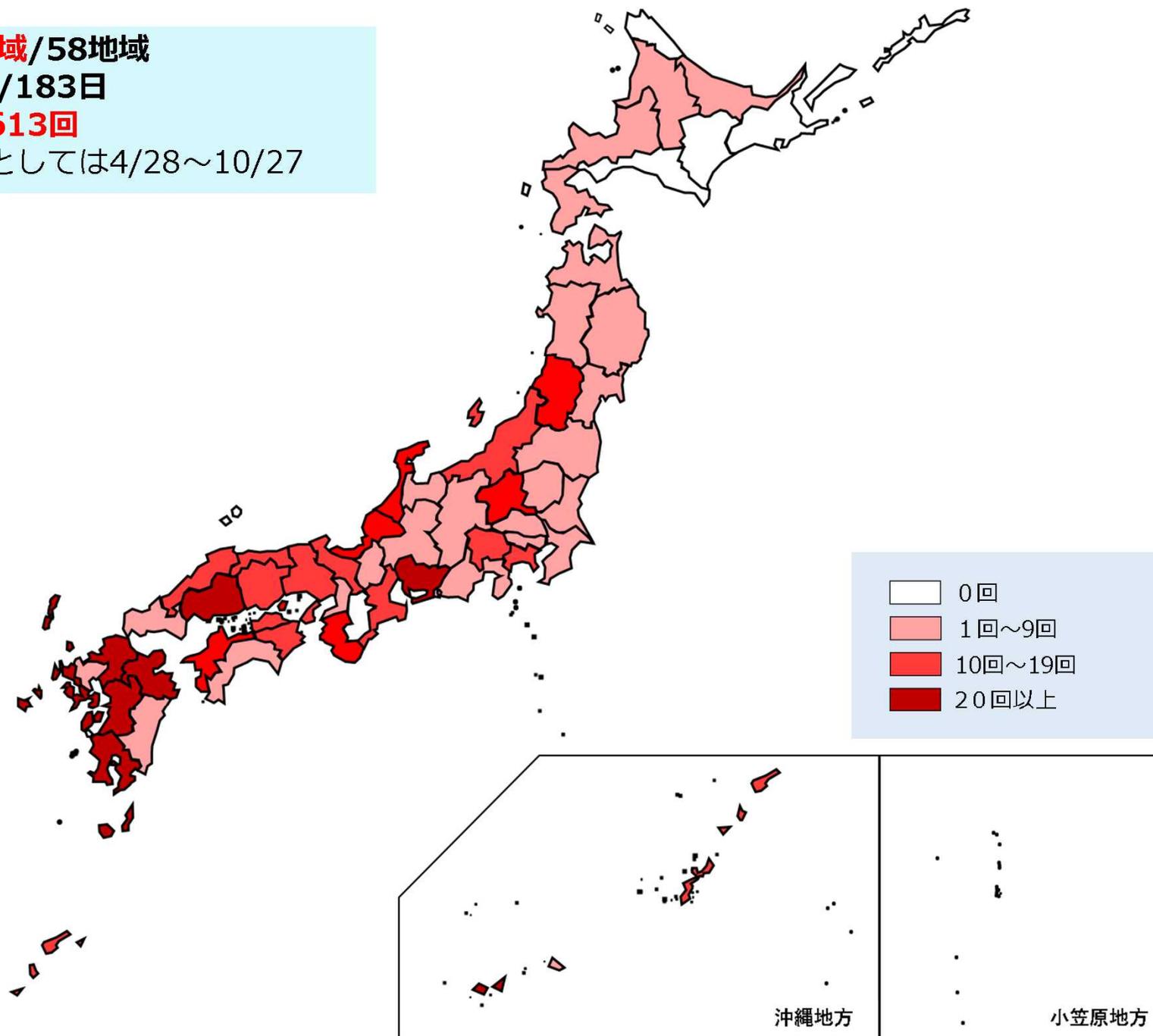
令和3年夏の全国における熱中症警戒アラート発表状況

発表地域：53地域/58地域

発表日数：75日/183日

延べ発表回数：613回

※いずれも期間としては4/28～10/27



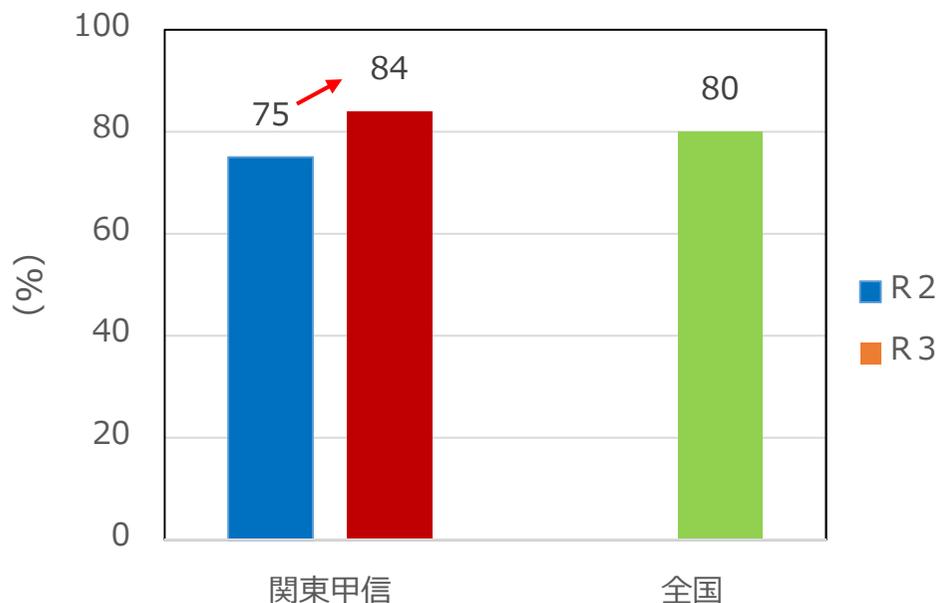
熱中症警戒アラートの活用状況等のアンケート調査の検証

令和3年度第2回熱中症予防対策に資する効果的な情報発信に関する検討会（令和3年12月14日）

問：熱中症の危険性が極めて高い暑さが予測される際に「熱中症警戒アラート」が発表されることをご存知ですか。

国民向け

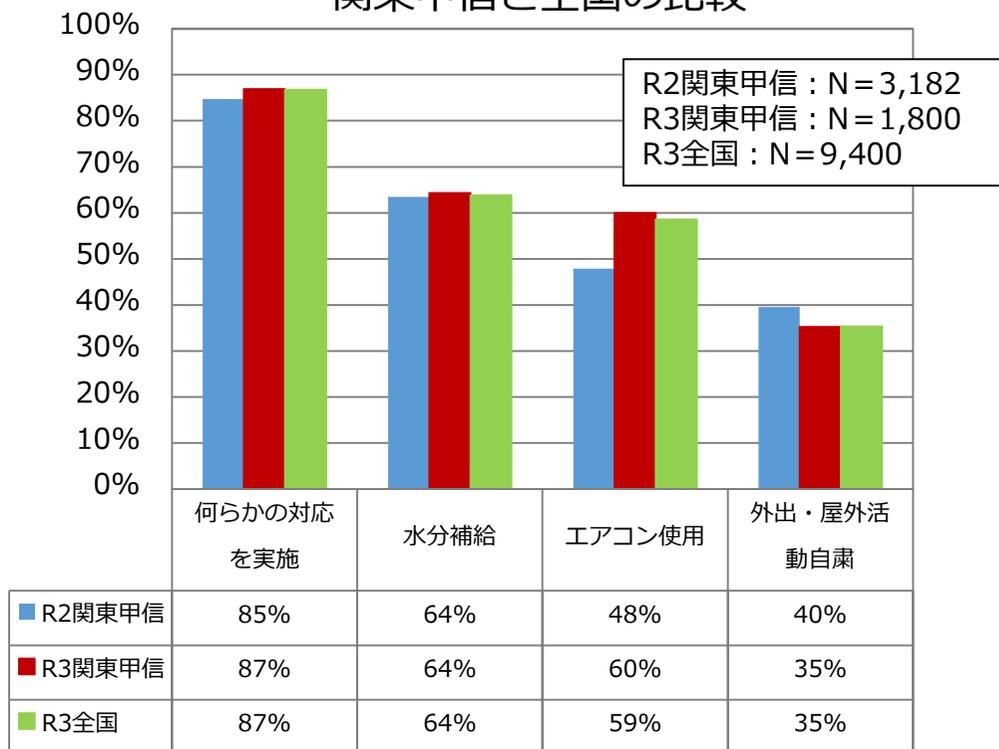
「知っている」と回答した割合



問：「熱中症警戒アラート」が発表されて、どのような対応を取りましたか。

国民向け

関東甲信と全国の比較



※主な対応を抜粋

検討会の考察

- 全国の国民のアラートの認知度は80%であり、一定の認知度が確認されている。
- 「水分補給」、「エアコンの使用」、「外出・屋外作業の自粛」などの予防行動をとっている者の割合は、全体としてまだ十分に高くはなく、熱中症予防行動が十分に定着した状況とは言い難い。

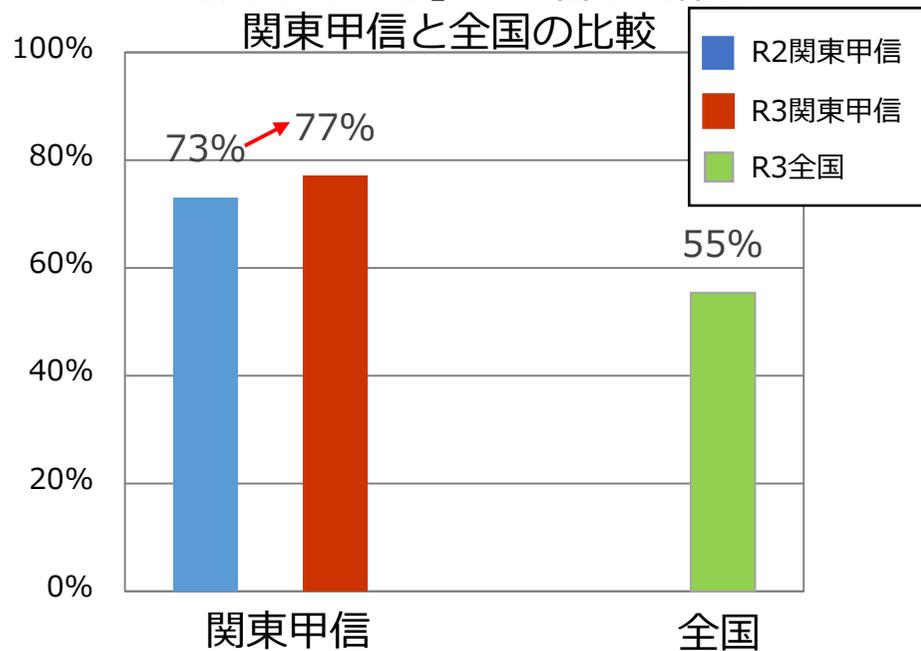
熱中症警戒アラートの活用状況等のアンケート調査の検証

令和3年度第2回熱中症予防対策に資する効果的な情報発信に関する検討会（令和3年12月14日）

問：「熱中症警戒アラート」を自治体内で活用していますか。

自治体向け

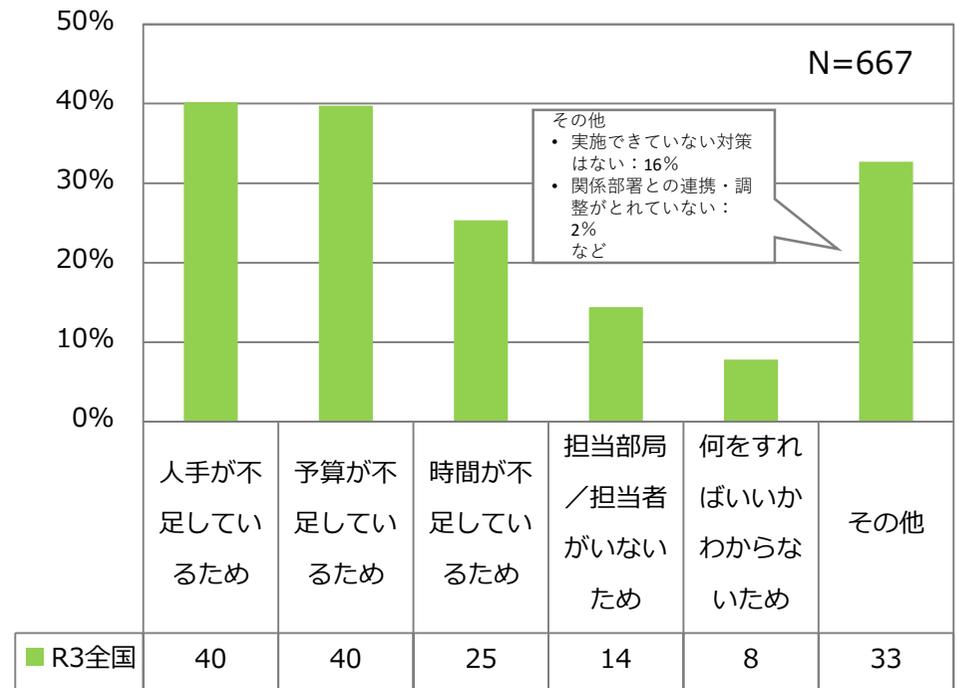
「活用している」と回答した割合
関東甲信と全国の比較



R2関東甲信：N=245
R3関東甲信：N=179
R3全国：N=802

問：熱中症対策を実施すべきだと考えているが、実施できていない理由としてあてはまるものを全てお知らせください。

自治体向け



検討会の考察

- 一定程度アラートの活用や熱中症対策が実施されていることが確認できたのは **6割程度**にとどまった。
- アラートの活用や熱中症対策への対応は、広報や呼びかけが中心となっており、**行事中止、ルールの策定、自治体施設への空調導入などの動きにはまだ結びついておらず**、こうした取組を推進するための**人材、予算、組織体制、関係部署との連携などの課題**が多く寄せられている。